

愛知県SDGs未来都市計画の概要

地域の実態

<地域特性>

(地理)

- 国土の中央に位置し、**三大都市圏**の一つ。一方、県土の4割を森林が占め、伊勢湾・三河湾に囲まれるなど**豊かな自然環境**を形成。
- 高速道路、東海道新幹線、名古屋港、中部国際空港など**優れた交通条件**。2027年度には、**リニア中央新幹線が開業**予定。

(人口)

- 人口減少社会の中、**社会増が自然減をカバーし、人口増加**が続く。
- 高齢化率は全国と比べ**若い人口構成**、**外国人は全国で2番目**に多い。

(経済産業)

- **県内総生産は全国第2位**。製造品出荷額等は**41年連続で全国1位**。
- **全国有数の農業県**であり、**花きの生産は50年以上連続で全国1位**。

(地域資源)

- 三英傑を始め多くの武将を輩出。特別史跡名古屋城、国宝犬山城など**豊富な武将観光資源**がある。**全国有数の山車まつり**がある。

<今後取り組む課題>

(経済面)

- 基幹産業である自動車産業が大きな環境変化にある中、**AIやIoTといった技術の進化に対応**しながら、**次世代自動車の開発・普及への取組**が必要。

(社会面)

- 今後、人口減少局面に転じるとともに、急速に高齢者が増加。**すべての人が活躍できる全員参加型の社会を築いていく**ことが課題。
- 若年女性の東京圏への流出超過が拡大する中で、持続的な発展のためには、若年女性の流入・定着が重要で、**企業等で女性が活躍できる環境を作っていく**ことが課題。

(環境面)

- 都市化や産業活動により失われた各地域の生態系を再生・回復、維持していくためには、**多様な主体が連携して生態系を守っていく**ことが課題。また、**企業等と連携しながら温室効果ガスの排出削減に取り組んでいく**ことが重要。

2030年のあるべき姿

2027年度のリニア中央新幹線のインパクトを最大限生かした、世界の中で存在感を発揮する大都市圏をつくっていく。とりわけ、最大の強みである「産業力」を生かしながら、**経済・社会・環境の三側面における調和のとれた、活力と持続力を兼ね備えた大都市圏**を目指す。

(経済面)

■ 世界をリードする日本一の産業の革新・創造拠点

- 環境負荷の低い次世代自動車や航空機、ロボットなどの開発・生産が進むとともに、世の中に**変革を起こすスタートアップ**が輩出されていく地域を実現。



- ◆ 県内総生産の全国シェア: 7.5%程度(2020年)
- ◆ 製造品出荷額等の全国シェア: 14.7%超(2020年)

(社会面)

■ 人が輝き、女性や高齢者、障害のある人など、すべての人が活躍する愛知

- 人口減少、高齢社会が進行していく中、年齢、性別、障害の有無、国籍に関わらず、誰もが活躍し、全員参加で支える社会を実現。



- ◆ 労働力率: 63.6%超(2020年)
- ◆ 県民の幸福感: 7.2点超(2020年)

(環境面)

■ 県民みんな未来へつなぐ「環境首都あいち」

- あらゆる場面で環境に配慮した行動がなされた結果、安全で快適な暮らしの確保と、環境と経済が高い水準で良好な状態に保たれた魅力ある地域を実現。



- ◆ 温室効果ガス総排出量の削減: 26%減少(2013年度比)(2030年度)
- ◆ 生物多様性という言葉の認識: 75%(2020年)

(経済面)

■ 近未来技術等の社会実装の推進

- 「自動運転」、「介護・リハビリ支援ロボット」、「無人飛行ロボット」、「サービスロボット」といった近未来技術の社会実装に向け、地域一丸となって取組を進めていく。
- 先端技術を利用したスマート農業技術の開発・普及やICTを活用したスマート林業を進めていく。



◆「自動運転」、「介護・リハビリ支援ロボット」、「無人飛行ロボット」、「サービスロボット」の各分野での社会実装件数（4分野の計）（累計）：20件（2020年度）

■ スタートアップと既存企業の連携によるイノベーションの創出

- 県内のモノづくり企業とスタートアップとの連携を総合的に支援するなど、新産業・新ビジネスの継続的創出を図るための取組を進める。



◆スタートアップと県内企業との新たな連携等の件数（累計）：220件（2021年度）

■ 自動車分野における新事業展開支援

- 「100年に一度の変革期」に直面している自動車関連の中小企業を対象に、新商品・新分野への進出意欲のある企業を発掘し、新規事業展開の支援を行う。



◆ワークショップ参加企業の新規事業展開件数（累計）：2件（2020年度）

■ 「ものづくり×AI・IoT」をテーマとした大学対抗ハッカソンの開催

- 県内産業の維持・発展に不可欠なIT人材の確保・育成を図るため、大学生・大学院生を対象とした「大学対抗ハッカソン」を開催する。

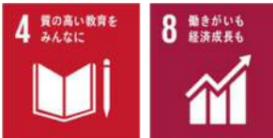


◆参加学生数：100名（2021年度）

(社会面)

■ 若者の活躍促進

- 若者が社会で活躍できるよう、企業における若者の職場定着の取組を支援する。



◆25~44歳の完全失業者数：25,000人以下（2021年）

■ 女性の活躍促進

- 全庁横断的に設置したプロジェクトチームのもと、経営者の意識改革やワーク・ライフ・バランスの推進、保育サービスの充実、女性の起業や再就職支援など、働く場における女性の活躍を促進する。



◆支援プログラムによる女性起業家の育成数（累計）：60人（2021年度）

■ 高齢者の活躍促進

- 高齢者が能力や経験を活かし、働き続けられる雇用環境づくりや就業支援を強化するとともに、社会参加を促進し、地域の活動を担う人材の育成を行う。



◆高齢者（65歳以上）の就業者数：471千人（2021年）

■ 障害者の活躍促進

- 障害の特性が分かりづらい精神障害者の採用と職場定着を促進するための取組や、農業分野における障害者の雇用を促進する取組を進める。



◆民間企業における障害者の雇用数：37,000人（2021年）

■ 外国人の活躍促進

- 新たな在留資格「特定技能」の創設に伴う外国人材の適正・円滑な受入れを促進するための早期適応研修カリキュラム等の作成や、増加する留学生や定住外国人の雇用を促進するための取組を進める。



◆早期適応研修カリキュラム説明会の参加企業・団体数（累計）：150企業・団体等（2021年度）

(環境面)

■ 「あいち地球温暖化防止戦略2030」の推進

- 地球温暖化防止に関する取組を総合的かつ計画的に推進する。



◆温室効果ガス総排出量の削減：1,262千t-CO₂減（2019~2021年度平均）

■ EV・PHV・FCVの普及促進

- 次世代自動車等先進エコカーの導入促進を始め自動車環境対策を推進する。



◆次世代自動車等先進エコカーの県内普及台数：200万台（2020年度）

■ 循環型社会に向けた取組

- 多様な主体の連携のもと、新たな広域循環モデルの展開等による循環型社会の形成を目指す。



◆循環ビジネス等の事業化検討件数（累計）：73件（2013~2021年度）

■ 自然との共生に向けた取組

- 多様な主体のコラボレーションによって生物の生息生育地を保全・再生・創出するなど、生物多様性保全に関する取組を推進する。



◆生態系ネットワーク協議会の構成員数：260団体（2021年度）

■ 行動する「人づくり」

- 環境学習を通じて、持続的な社会を支える「行動する人づくり」を推進する。



◆環境講座受講者数：13,700人（2021年度）

情報発信、普及展開策

- 県のSDGsに関する取組などについてとりまとめたPRパンフレットを作成し、セミナーやワークショップの機会を通して、広く情報発信を行う。
- 環境分野でSDGsに取り組む様々な主体が一堂に会し、ネットワーク化を図るイベントを開催する。このイベントでは、先導的取組等の情報発信を行う。
- 県内のSDGs未来都市に選定された自治体と連携し、県内の気運醸成と、他自治体等へ取組の働きかけを行う。

特に注力する先導的取組

「愛知目標」達成に向け先導した「あいち方式」の発展・確立プロジェクト

<概要>

- 本県は「環境首都あいち」を目指し、生物多様性保全において、COP10において採択された「愛知目標」の達成に向け、県全域での生態系ネットワークづくりや、国際広域自治体との連合設立など先導的な取組を全国・世界に先駆けて実施。
- こうした生物多様性保全の取組実績をさらに発展・確立させ、未来の愛知を担うユース（学生）を核として、県内では企業、NPOなど多様な主体との連携を、世界では海外の自治体との連携・交流を推し進めることにより、経済・社会・環境の三側面をつなぐ取組を持続・発展させていく。

